

1. 調査目的等

小・義務教育学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

- ・国語・算数ともに5ポイントアップをめざす。
- ・学力層CD層を減らし、評価1を減らす。
- ・算数科単元テスト80点以上通過率80%以上を目指す。(算数科)

3. 指標にむけての取組

- ・学ぶ意欲を喚起し、ねらいを明確にした授業づくりを行い、終末適応問題における形成評価の実施及び補充学習の確保。(算数科)
- ・各単元においてレディネステストを整える時間を設定し、プレテスト後の少人数分割授業を行い、単元テストの向上を図る。(算数科)

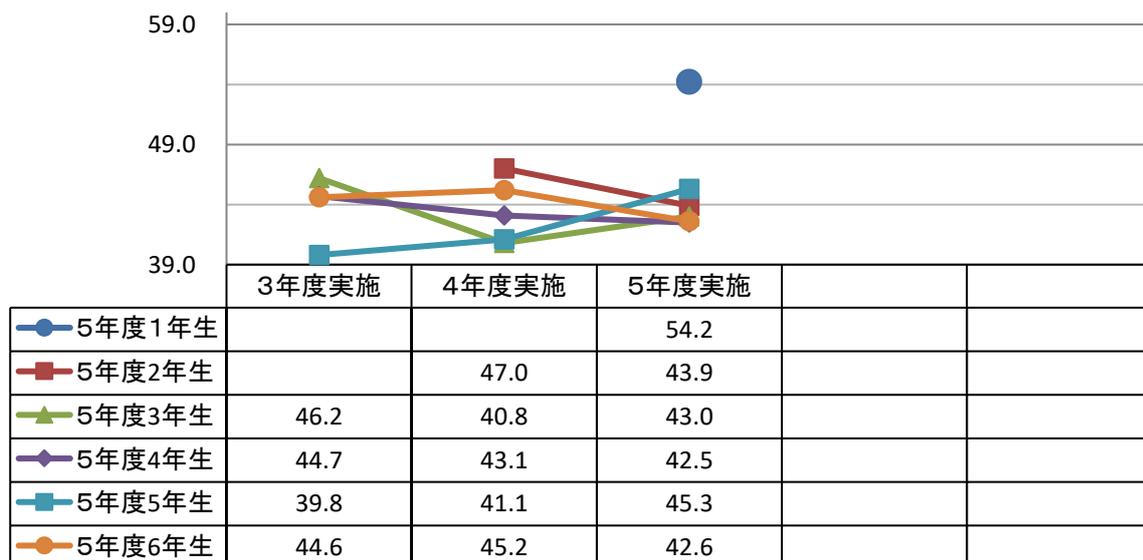
4. 調査結果

※学校平均(国語・算数)2年間の推移

(標準スコア:全国値の正答率を50とした時の換算値)

年度	3年度	4年度	5年度		
本校(A)	44.0	42.8	42.4		
嘉麻市(B)	47.0	47.2	48.5		
(A) - (B)	-3.0	-4.4	-6.1	0.0	0.0
全国値との差 (A) - (50)	-6.0	-7.2	-7.6	-50.0	-50.0

各学年の標準スコアの推移



5. 各学校における分析

- ・1年生においては、日頃の指導の成果が表れ国語・算数ともに全国を大きく上回ることができた。
- ・2年生から6年生においては、まだまだ全国と比較した場合大きな格差がある。
- ・同一集団で比較した場合、昨年度より3年生で算数が向上した。5年生では、国語、算数、理科すべての教科で向上した。
- ・国語、算数ともに基礎基本が定着できていない児童が多い。

6. 各学校における今後の取組

- ・標準学力調査の結果を分析し、個々の実態を把握し、来年度につないでいくために学年のまとめの時間を確保し、フォローアップシート、たしかめドリルを活用して学習することを確認した。
- ・子どもたちが意欲的に授業に取り組むための授業改善を行う。ねらいを明確にした授業。「書く活動」を位置付けた授業。振り返りの時間の確保。問いのある授業等。
- ・レディネステスト→授業→プレテスト→習熟度別指導→単元テストの単元の流れを全職員で確認し、単元テスト80点以上通過率80%以上をめざす。
- ・基礎基本の定着を図るために、「100マス」計算を学校全体で取り組んでいく。
- ・保護者の啓発を図りながら家庭学習の徹底を図っていく。
- ・指導方法工夫改善教員や専科教員、管理職を含め算数科の少人数分割授業(習熟度別含む)を行う。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、AIDリルを活用した個に応じた家庭学習課題の推進を図る。

また、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。

◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方、ICTの利活用について指導する。